中耳・副鼻腔炎 肺炎球菌抗原検査	8129600
	担当部署
耳・鼻肺炎	微生物

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		採取した試料中に肺炎球菌量が少ない場合は偽陰性になる可能性があるので、診断は他の検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断すること。 S. mitis では、交差反応性が認められた。また、他の細菌との交差反応の可能性も完全には否定できないため、診断には注意すること。
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	該当なし
検体採取の特別なタイミング	特になし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	分泌物	細菌　綿棒 5	なし		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温 採取後直ちに提出
検体受入不可基準	1）検査ラベルがない検体 2）専用の綿棒以外で採取された検体 3）乾燥した検体

保管検体の保存期間	保存不可				
検査結果・報告					
検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中				
生物学的基準範囲	陰性（－）				
臨床判断値	該当なし				
基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因	該当なし				
臨床的意義	肺炎球菌は化膿性炎症を起こし、肺炎・中耳炎・髄膜炎・敗血症・膿胸をはじめ、様々な感染症の原因菌である。肺炎は大葉性肺炎が多いが気管支肺炎の場合もある。大葉性肺炎の大半は本菌が原因菌によるものが多い。全肺炎の 10～30%が本菌による。健常者に突然本菌による肺炎が起こることは少なく、局所抵抗性が低下した状態のヒトが罹患しやすい。乳幼児の中耳炎の 3 大原因菌の一つであり、とくにペニシリンおよびセフェム系薬剤耐性肺炎球菌による中耳炎は難治性であり注意が必要である。 「戸田新細菌学　改訂 34 版　2013 年」				